

04/26 - 04/27

JAPAN EXPO Paris
in Osaka



スマートフォンを使った
お酒のガチャで
日本酒文化をアピール

IoTシステムを自社内で一気通貫で開発

1995年創業の株式会社ワイズ・ラブは、IoTという言葉がなかった時代から、モノとモノ、モノと人、人と人が「つながる」システムを受託開発したり、自社製品の開発・販売を行ったりしています。代表的な自社製品には、モノのID(個体識別情報)と位置情報を紐付けてクラウド上にデータを登録し、アプリやWEB上で位置を可視化する「物品位置管理IoTサービスXeye(クロスアイ)」や、見つけたいモノを光らせることでピッキングを支援するシステム「光るタグ☆Vegaシリーズ」、電子ペーパー表示機能付きタグ「賢fuda(かしこふだ)」などがあります。こうしたシステムを全て自社内で、一気通貫で開発できることが同社の強みとなっています。



1回に出る酒量などは自由に設定できる

アプリの画面上の「ガチャ」を回す「SakePonガチャ飲み」を出展

大阪・関西万博(以下、「万博」という。)では、「世界を沸かす日本のクールを体感」させることを狙いとした「JAPAN EXPO Paris in Osaka」に、同社が独自に開発した「SakePonガチャ飲み」をブース出展します。「SakePonガチャ飲み」とは、スマートフォンのWebアプリで「ガチャ」を回すことでランダムに日本酒が飲み比べられるサービスです。万博では灘五郷の18銘柄(9銘柄の入れ替え制)を楽しむことができ、さらにガチャで当たった銘柄の一升瓶ミニチュア入りカプセルもセットされます。これまでさまざまなモノをIoTシステムに組み込んできた同社が、日本酒の一升瓶一本ずつがインターネットにつながれば、これまでになかった日本酒の楽しみ方を提供できるのではないかと考えたことが開発のきっかけです。



アプリの画面上のイメージ

日本酒離れをしている国内の新たな需要を掘り起こすきっかけに

もともと「SakePon」は、コロナ禍に人やお金と接触せずに、日本酒を提供するシステムとして開発されたものですが、開発している時点で万博の開催は決まっており、万博会場に出展することも意識して開発されました。インバウンドに向けては、いろいろな銘柄を気軽に楽しむことができることを訴求し、すでにシンガポールなどに設置されている「SakePon」の、さらに新たな販路を開拓すべく、外国人の反応を見る機会とします。一方、日本酒離れをしている国内に向けても、スマートフォンを使ったエンターテインメント性から、若い人や女性へのアピールを目指しており、日本が世界に誇る日本酒の需要拡大の一助となればと考えています。



灘五郷のイベントでも人気を集めた「SakePon」

企業概要

所在地 〒591-8025
堺市北区長曾根町3079-13
TEL 072-254-5109
設立年 1995年
資本金 1,000万円
従業員 13名

公式サイト

さかしる



万博への出展で、ビジネス面での成果にも期待



代表取締役

内橋 義人 さん

EXPO'70の時は小学生で、会場内のパビリオンの位置を全て覚えるほど夢中になりました。先進の技術を目の当たりにして、とてもワクワクしたものです。今回の万博でワクワクするほどの目新しい技術を出展しているわけではありませんが当社が開発したIoTシステムによって、国内外の大勢の方へ日本酒や日本文化を伝える役割を果たせればと思います。あわせて、「SakePonガチャ飲み」が楽しまれている様子をご覧になった国内外のバイヤーやイベント企画会社と、ビジネス面での成果も期待しています。

事業内容

IoTシステム自社製品開発・販売
現場系業務システム受託開発
組込制御システム受託開発

主な取引先(納入先)

ホテル・駅・空港などの宿泊・旅行業
外食チェーン・居酒屋など飲食業
ドリンク・フードイベント企画業

主な製品・サービス等

物品位置管理IoTサービスXeye(クロスアイ)、光るタグ「Vega」シリーズ、賢fuda(かしこふだ)